

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 黒鯛)

事業所番号	0673100087		
法人名	ケアサービスつきみ		
事業所名	グループホームねずがせき		
所在地	山形県鶴岡市鼠ヶ関字横路9番3		
自己評価作成日	平成 21 年 7 月 9 日	開設年月日	平成 16 年 8 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎食事は季節のものを手作りで提供、材料は職員が主に新鮮なものを購入し小さなものは利用者さんと一緒に買い物しています。主人公は利用者さんであるので行事等では日頃の練習の成果を発揮し、踊ったり歌ったりしている元気なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本海が一望できる高台に位置し、ゆったりとした落ち着いた環境である。食事は、日本海で採れた新鮮な魚料理や地元の旬の食材を取り入れ楽しめるものとなっている。また、広々としたホームの敷地内では、ゲートボールを楽しむ活き活きとした姿も見受けられ、利用前からの生活の延長上に今があることを感じさせる。ホーム主催の夏祭りやレクリエーションも利用者、地域の方々、職員が共に作り上げるようにしており、そこには自然体の人々の集いがある。互いの思いやりを大切に、笑顔でゆったりと寄り添う家庭的なホームである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21 年 7 月 23 日	評価結果決定日	平成 21 年 8 月 12 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議前や毎日の申し送り前後に勤務者全員で唱和している。	法人全体の理念を基に、事業所独自の理念を職員全員で作成し、ミーティング等で周知徹底を図っている。また、理念に掲げた、「認めてよりそう心」を大切に、日々のサービス提供に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	特にデイサービス利用者さんでは家族さんの生活パターンを考慮し利用していただいている。	職員と利用者による公道の草刈作業等の地域貢献活動を通し、地域からの理解を深めるとともに、地域とのつながりを保ちながら生活できるような交流を行っている。また、地域参加型の手作りの夏祭りを計画している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館等で認知症について、嚙下に問題ある人の食事作りの講習会を支所の方の指導で行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価については、報告しアドバイスをいただいている。それを生かしている	年6回の運営推進会議は、事業所の現状や評価結果等について報告を行うとともに、市職員、自治会長、民生委員等の様々な助言をいただく機会として位置づけている。また、災害対策や外出者への対応方法について、警察等を含め協力体制について協議している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に生活保護の利用者さんについては連絡を密にしている。	独居老人や老々介護等の地域における様々な問題について、日頃から市職員と連絡を密に取るとともに、困難事例について、市職員との協働により解決した実績もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関にはチャイムはついていますが、寄り添って外に散歩に出たりし本人さんが納得してからホームに戻ったりしている。拘束着は使用していない。車椅子の方もいるが移動のみ使用している。	職員会議の中で、身体拘束への理解を図っている。また、理念に掲げた「認めてよりそう心」を徹底することにより、本人の気持ちを理解し、不安や混乱等を取り除く本人本位の支援を提供することにより身体拘束が無いよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体の傷等は職員全員に周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市又はGH連絡協議会主催の研修に参加し、職員会議等で話し、周知を図っている。(利用している人はいない)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約後も面会時、電話での質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、相談員からの情報等は運営推進会議でも話、職員会議でも話し合いサービス向上につなげている。	利用者会議や家族会を通じ利用者や家族の意見を聞く機会を作っている。また、出された意見等については、事業所で検討後、サービスに取り入れるよう努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員会議、運営推進会議参加し、又個別面接も行き、意見。提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表、タイムカード、研修参加、休憩室の設置、資格を得たときに給与に加算等環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員ごとにあった研修を進めているし、施設内でもだれでも参加できるように3日間は同じ内容で勉強会をしている。	様々な研修会に積極的に参加するとともに、内部研修では、職員全員が参加できるよう日程を考慮し実施している。また、併設の小規模多機能居宅介護事業所の開設にともない、職員を採用し、スキルに応じた全体的なレベルアップを重視した研修にしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員の交換制度や研修で意見の交換をしている。電話や訪問し難点について意見を求め、質の向上につとめている。	グループホーム連絡協議会や鶴岡地区のケアネットに参加し情報を収集するとともに、管理者が人選し、交換研修に積極的に参加させる等多角的視野を養えるような交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、何が不安なのか、交話中から安心を得られるには何か、を探り安心を得られるための関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時情報の共有を密にし、家族、本人の望まれているサービスができる様にしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のときに当施設のサービス内容を確認しあい契約してもらっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事してもらい、人生の先輩としてアドバイスを得ながら協力し合い暮らしている。(特に行事食等)			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族として繋がってられるように面会時又は新聞では施設内の出来事、本人が話した事等を伝え又家族内のニュースをお聞きし本人に伝えている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事、レク、夏祭り等に参加を呼びかけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士孤立しないように声掛け、一緒に行動できるように職員が中に入り支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に乗り支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で検討している。	「認めてよりそう心」を大切にし、毎日、新たな気持ちで利用者に接することを心掛け、日常生活の中から、思いや希望意向等を把握している。困難な場合には、生活歴の把握や家族からの情報を基に、本人本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	温度版、動静録に記入している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望、本人の様子等を考え支援実地表を作り介護計画を作成している。	担当職員が作成する支援実施表に基づき、計画作成担当者や管理者が、介護計画を検討している。また、状態変化時には、見直しを行っている。しかし、定期的なチームでの見直しの機会は今のところ不足している。	職員による短期的なモニタリングと評価を行い、その結果に基づき必要な関係者と話し合いながら、それぞれのアイディアを生かしたチームでの介護計画の作成を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有と個別記録を活かして見直ししている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせ柔軟なサービスに取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配食、掃除、受診介助しながら地域の人の見守りを得て本人本位で暮らせるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、又その時その時の様子を把握し適切な医療が受けられるように支援している。	利用者の希望を尊重しつつ、協力医療機関にかかりつけ医の変更を行う時は、同意書をいただいている。また、家族の意向を基に通院介助を行い、その都度かかりつけ医との連携を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や不安があった時はすぐに看護職員に相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、情報交換し、相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の方針を示し、家族も家族間で話し合いして欲しい事を家族会にて説明している。又主治医にも方針を説明し、協力を御願ひしています。	利用者の状態変化にとめない、事業所として出来ること出来ないことを、家族と段階的に話し合い、その上で希望に基づいた支援を行っている。また、協力医療機関と看取りについての方針等を協議する中で、協力体制についても話し合っている。今年度は、家族会での議題に上げ話し合いを行った。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4月より勉強会をしている。能力に差があり個別の訓練が必要である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	朝、昼、を想定し地域の消防団の協力を得て年2回消防訓練、行っている。今年は夜間訓練も取り入れている。	昨年の外部評価をうけて、消防関係者の協力を得た年二回の消防訓練や、災害時の避難訓練、緊急時対応の研修等行っている。また、地元消防団や地域の方々への協力依頼も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ移動時には言葉の使い方、声のトーン、目や指での合図を送ったりして対応している。	ミーティングの際、言葉遣いや対応について話し合いを行い、注意喚起を促している。今年度は接遇の研修も計画しており、職員の介護力の向上とともに力を注いでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者本位にならない様気をつけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい時間割りはなくその時その時の希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出にあった衣類又、化粧もしている。又家族の希望にて毎日別の洋服との希望も取り入れ支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事は利用者さんの力もかりて生活している。	職員と利用者による利用者会議では、食事についての話し合いが行われ、希望を取り入れた食事を提供している。また、職員も一緒に食事し、準備や片付けは利用者の能力を活かしながら一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	温度版にて把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人に応じた支援で行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	温度版にて把握している。(日中布パンツ可能になった方もいる。)	排泄の自立支援に向け、温度版による利用者ごとの排泄リズムの把握に心掛け、適時の誘導等により改善が見られた利用者もいる。また、排泄の失敗時等には、羞恥心に配慮しさりげない対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、繊維質の食べ物、毎日の恵運動と個々に声掛けし予防している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	介助がいる方については施設の時間で入浴するが、急がないでゆっくりと楽しめるようにしている。	自立の利用者については、本人の希望により、夕食前までの時間帯で随時対応している。介助が必要な利用者については、決まった時間はあるが、ゆっくりと楽しめるように心掛けている。また、新たにリフト浴を設置中であり、今後、より一層利用者の希望に添えるよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った清潔な寝具で眠れるように支援している。又足浴をする事もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録にて使用の薬を把握し、薬局から出る説明書にて副作用や用量、用法を理解し、日々の現場で症状の確認に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の生活歴を参考にして気分転換の支援をしている。(例えば一緒に畑をしたり、雑草をにいたり、ケーキを焼いたり～)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は玄関前でゲートボール、梅を採りに、又春はワラビ採りと地域の人の協力を得ながら季節を楽しんでいます。	地域の方の協力を得ながら行うワラビ採りや梅採り等の行事をはじめ、天候により、なるべく外出できるよう戸外でのレクリエーションを行っている。また、利用者の希望に基づき、お墓参りなど様々な個別支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	もっている人は少ないが日用品の買い物、床屋代等の支払い時に支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの準備をしたり、ダイヤルを回してやるとかの支援をしていますが、限られた方だけです。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った物使用し、季節感を取り入れています。	共用スペースの居間食堂は広々としており、長椅子に腰掛け利用者の談笑する姿が見受けられる。また、大きい窓からは日本海が望め鮮やかな夕日が楽しめる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とホールの行き来ができるので自由に思い思いに過ごしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や小さな仏壇、人形等馴染みのものを飾り又椅子などで居心地良く配置して暮らしています。	各居室に洗面台を完備し、利用者の利便に配慮している。また、利用者の状態や希望により畳も使用できるとともに、家族の写真等馴染みの物を配置し、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸は使用していない時は開けて直ぐに場所が解るように工夫しています。風呂場は使用していない時は鍵を掛け安全に心がけています。	/	/